

G ビズ ID の民間サービスでの実証的接続実験 報告書

(公開用)

令和8年3月19日

【報告者】

特定非営利活動法人 IT コーディネータ協会

つなぐ IT コンソーシアム

G ビズ ID の民間サービスでの実証的接続実験 報告書

目次

(1) サービス概要	3
1.1 サービス名称	3
1.2 サービス提供者	4
1.3 サービス内容	4
1.4 既存、新規の別	6
1.5 その他	6
(2) 進捗状況に関する実績工程表	7
2.1 G ビズ ID システムとの連携に係るシステム開発の期間	7
2.2 連携後の運用期間（実績）	7
(3) 運用実績書	7
3.1 G ビズ ID システムと連携後の課題等	7
3.2 実証検証プログラムおよびスケジュール	9
3.3 実証検証実施内容及び結果	9

(1) サービス概要

1.1 サービス名称

・「中小企業共通 EDI」

本実証検証で使用されるアプリ(EcoChange)は中小企業共通 EDI の仕様に準拠する製品の1つ。

・同様のサービスを提供するアプリとしては以下の6製品・サービスがある。

	【企業名】 株式会社イークラフトマン 【製品・サービス名】 <u>クラウドEDI</u>
	【企業名】 株式会社グローバルワイズ 【製品・サービス名】 <u>EcoChange</u>
	【企業名】 株式会社エクス 【製品・サービス名】 <u>EXtelligence EDIFAS</u>
	【企業名】 株式会社インフォーマート 【製品・サービス名】 <u>BtoBプラットフォーム</u>
	【企業名】 一般社団法人トヨタWG共通EDI推進協会 【製品・サービス名】 <u>トヨタWG共通EDI</u>
	【企業名】 株式会社スマイルワークス 【製品・サービス名】 <u>SmileWorks EDI連携ゲートウェイサービス</u>

上記の製品・サービスは特定非営利活動法人 IT コーディネータ協会が「中小企業共通 EDI 標準仕様に準拠する製品・サービス」として認証したものである。

1.2 サービス提供者

「株式会社グローバルワイズ」

設立年月日：1997年11月19日

資本金：1億円(2016年2月末時点)

社員数：50名(2024年4月時点)

事業内容：EDIシステム開発、IoTシステム開発、AWS導入支援、業務アプリケーション開発、システム保守・運用、コンピュータ機器販売・保守・輸出入

取引先：株式会社アイシン、井村屋フーズ株式会社、NRIセキュアテクノロジーズ株式会社、株式会社コジマ、小島プレス工業株式会社グループ、株式会社 JERA、シティ・グループ・サービスジャパン合同会社、株式会社ジャパンインベストメントアドバイザー、ダイコク電機株式会社、株式会社タダノ、株式会社中電シーティーアイ、中部電力株式会社、トピックス株式会社、株式会社トヨタシステムズ、トヨタ紡織株式会社、豊田通商システムズ株式会社、日進工業株式会社、日東工業株式会社、マネックス証券株式会社、宮地電機株式会社、未来工業株式会社、矢崎部品株式会社、株式会社 UACJ 金属加工、山宗株式会社

販売パートナー：APN(AWS Partner Network)セレクトコンサルティングパートナー、株式会社応研 販売パートナー、株式会社オービックビジネスコンサルタント 奉行販売パートナー、株式会社エフ・ビー・エス 販売パートナー、株式会社ラクス 販売パートナー、他(敬称略・順不同)

本社 〒450-0003 愛知県名古屋市中村区名駅南 2-14-19 住友生命名古屋ビル 21階 [MAP](#)

東京事業所 〒101-0041 東京都千代田区神田須田町 1-5-14 ディアモンドビル 7階 [MAP](#)

青森事業所 〒030-0861 青森県青森市長島 2-13-1 AQUA青森スクエアビル 7階 [MAP](#)

・グローバルワイズ社は「つなぐ IT コンソーシアム」の代表幹事会社も務める。

◎グローバルワイズ社ホームページ ➡ <https://g-wise.co.jp/>

◎つなぐ IT コンソーシアムホームページ ➡ <https://tsunagu-cons.jp/>

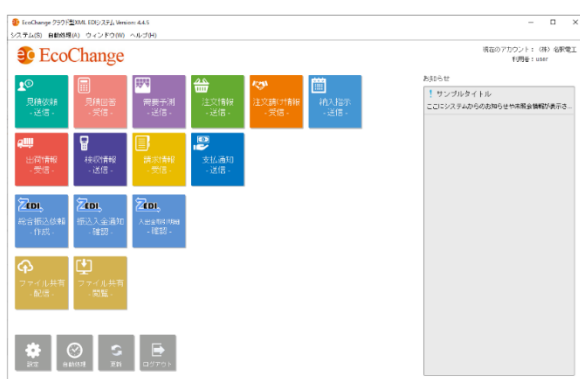
◎中小企業共通 EDI ポータルサイト ➡ <https://www.edi.itc.or.jp/>

1.3 サービス内容

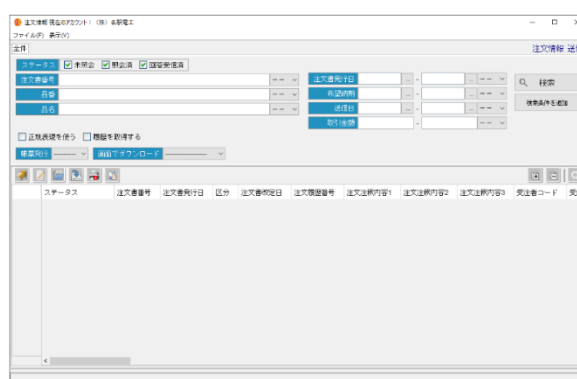
本サービスは中小企業共通 EDI 仕様に準拠した企業間電子商取引 (EDI) サービスであり、発注・受注等の取引データ交換を行う。今回の実証では、この EDI サービスの利用時ログイン認証に G ビズ ID を適用し、その認証基盤としての有効性を検証した。

①EcoChange とは

簡単・便利・低コストを目指し大手・中堅から中小企業までの受発注業務に最適化、標準化した EDI です。インターネット EDI なので、2028 年末の ISDN 終了に直面するレガシー EDI からの移行にも対処することができます。大企業・中堅企業においても中小企業との受発注では未だ FAX が使われているのが現状です。このような状況の中、FAX に代わり受発注業務のデジタル化を実現するのが EcoChange です。EcoChange があれば、クラウド・オンプレ問わず、貴社基幹システムとシームレスに連携できます。また、取引先のデータを同一形式（自社用）の CSV、Excel、または XML としてダウンロードすることができます。EcoChange の利用料金は従量課金制です。年額費用固定化プラン（別名：EcoChange Flat）のご用意もございます。



バイヤー側 メイン画面

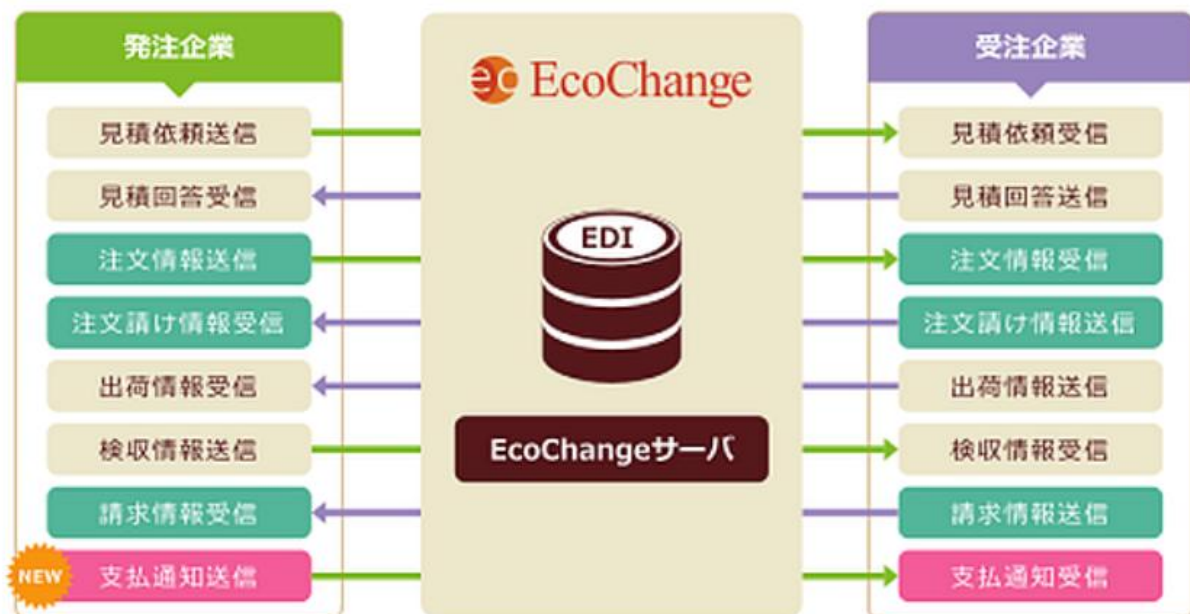


バイヤー側 注文情報送信画面

②EcoChange の特徴

EcoChange は国連 CEFAC 国際 EDI に準拠したクラウド型 XML-EDI。

- ・多端末問題、多画面問題を解決するシングルウィンドウ・シングルインターフェイスを実現
- ・基幹システムや各種アプリケーションとのシームレスな連携を実現。
- ・クラウドサービスによる提供。
- ・電子帳簿保存法上の電子データ保存要件に対応。
- ・OBC「商蔵奉行」、応研「大臣エンタープライズ」を始め中小企業共通 EDI に準拠した業務アプリとの連携が可能。
- ・全銀 EDI システム（ZEDI）連携。売掛金自動消込など経理業務の効率化を実現。



1.4 既存、新規の別

◎既存（EDI サービスとして稼働中。今回 G ビズ ID ログイン対応を検証）

中小企業共通 EDI 標準仕様に準拠した「EcoChange」はすでに多くの企業に利用されているが、今回は利用者が「EcoChange」にアクセスする際に、G ビズ ID を利用してその企業が間違いなく存在する企業であるかの信ぴょう性を確認するために使用します。

従って、その企業 ID を確認する部分は新規の開発になります。

1.5 その他

EcoChange は中小企業共通 EDI 仕様に基づくアプリ（RP）であり、G ビズ ID（IdP）を用いて認証を行う構成。

- ・ 中小企業共通 EDI 標準に準拠した共通 EDI プロバイダの機能は、他の IT ベンダーの製品・サービスも同等の機能を保有しますが、現状では、このシステムを利用するユーザー企業の ID の管理はプロバイダ毎に個別に行っている

る。それを今回の実証検証では、共通に G ビズ ID で行うことができるかの検証になる。

(2) 進捗状況に関する実績工程表

2.1 G ビズ ID システムとの連携に係るシステム開発の期間

- ・2025年10月～2026年2月末まで（約6か月間）

2.2 連携後の運用期間（実績）

- ・今回は実証検証が主な目的のため、実運用までは至っていない。

(3) 運用実績書

3.1 G ビズ ID システムと連携後の課題等

実証の背景：G ビズ ID との連携に期待できること及び現状の課題

- ・G ビズ ID は、1つの ID・パスワードで様々な行政サービスにログインできるサービスです。
- ・G ビズ ID と EDI プロバイダのアカウント/ユーザーを紐づけることで、以下の効果が期待されます。
- ・G ビズ ID 事業者番号が EDI における統一企業識別子となる（G ビズ ID 事業者番号の公開が必要）。
- ・EDI プロバイダは、ユーザー企業の利用者登録審査（KYC）を G ビズ ID プロバイダ（デジタル庁を想定）に移譲できる。
- ・EDI 商取引データの真正性及び非改竄性を確保できる（EDI 商取引データに G ビズ ID の電子証明書/e シール等の付加が必要）。
- ・EDI 商取引データと税務処理における証憑が紐づけ可能。EDI 商取引データの自動仕分けができれば、税務処理の省略化につながる。
- ・EDI 商取引データと金融機関の信用情報との紐づけ可能。PO ファイナンス等の金

融サービスとの連携に期待。

・IT 導入補助金などの公的施策とアカウント/ユーザーを紐づけできる。

しかし現状では、

- ① G ビズ ID は、認証サービスのみ提供されている。したがって G ビズ ID に紐づく事業者番号が公開されないと EDI 統一識別子にならない。
- ② デジ庁がトラスタンカーとなり、G ビズ ID に紐づく電子証明書が発行されていない。
- ③ 中小企業共通 EDI 標準では、EDI 商取引データに電子署名を行う仕様が策定されていない。

といった課題が存在します。

※特に課題の①②に関しては、中小企業共通 EDI プロバイダサービス間や JP-PINT、及び国内の主要な業界業種 EDI との相互運用を実現するために解決すべき重要な課題です。

そのため本プロジェクトでは、G ビズ ID 事業者番号の一般公開・API 参照の早期整備を強く要望しています。

3.2 実証検証プログラムおよびスケジュール

・G ビズ ID 連携実証は、下表のスケジュールに沿って進めた。

工程	作業項目	10月	11月	12月	1月	2月	3月
準備	G ビズ ID 発行↓ 依頼	■					
設計	要件定義/↓ 概要設計	■					
開発	テスト用サーバ↓ 環境構築		■				
	テストシナリオ↓ 設計		■				
	OpenID Connect↓ API 認証認可↓ 処理実装			■			
	法人番号マッピ ング処理				■		
検証	テストデータ↓ 作成				■		
	テスト実施				■	■	
報告	報告書作成						■

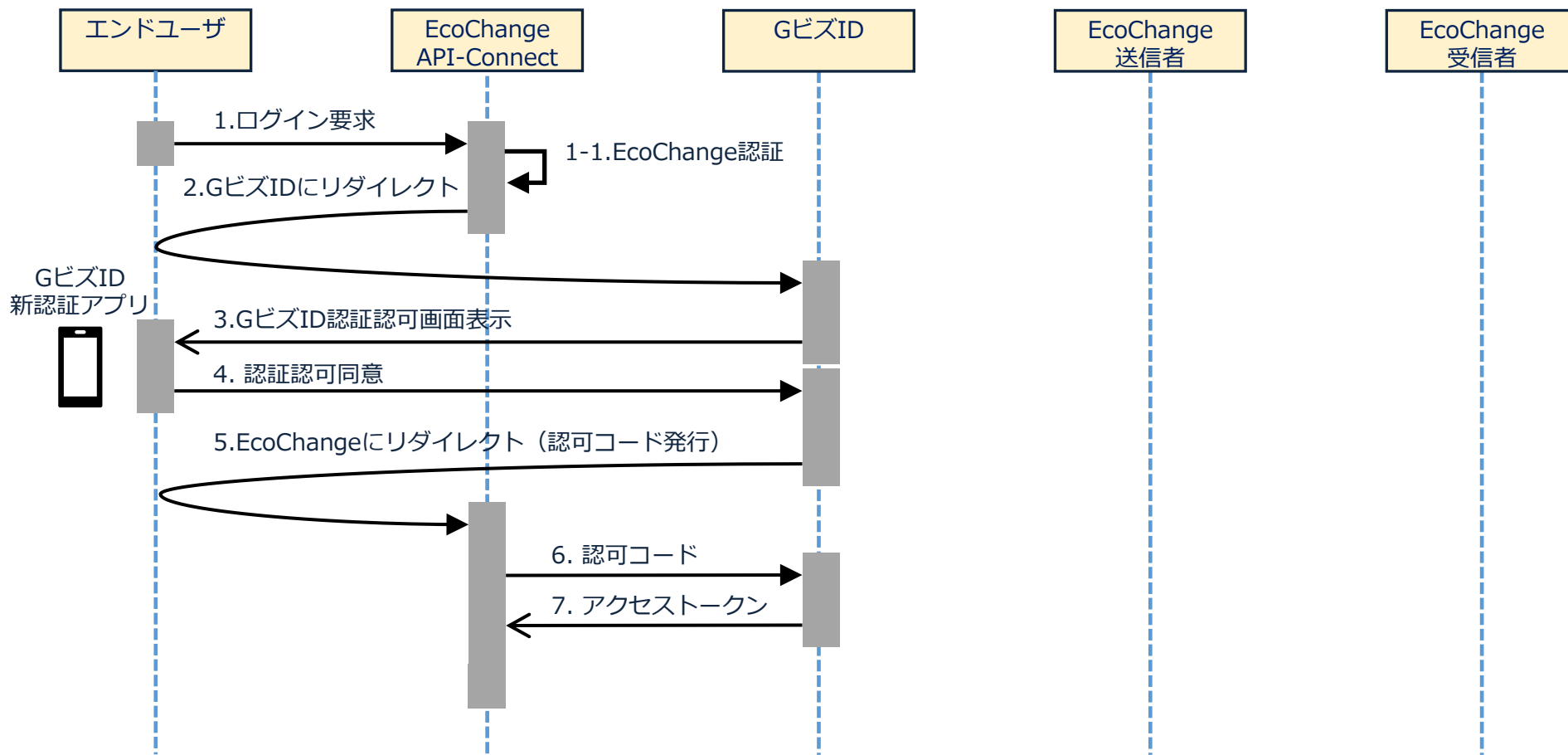
3.3 実証検証実施内容及び結果

※実証検証の内容及び結果を以下の添付資料でご説明します。

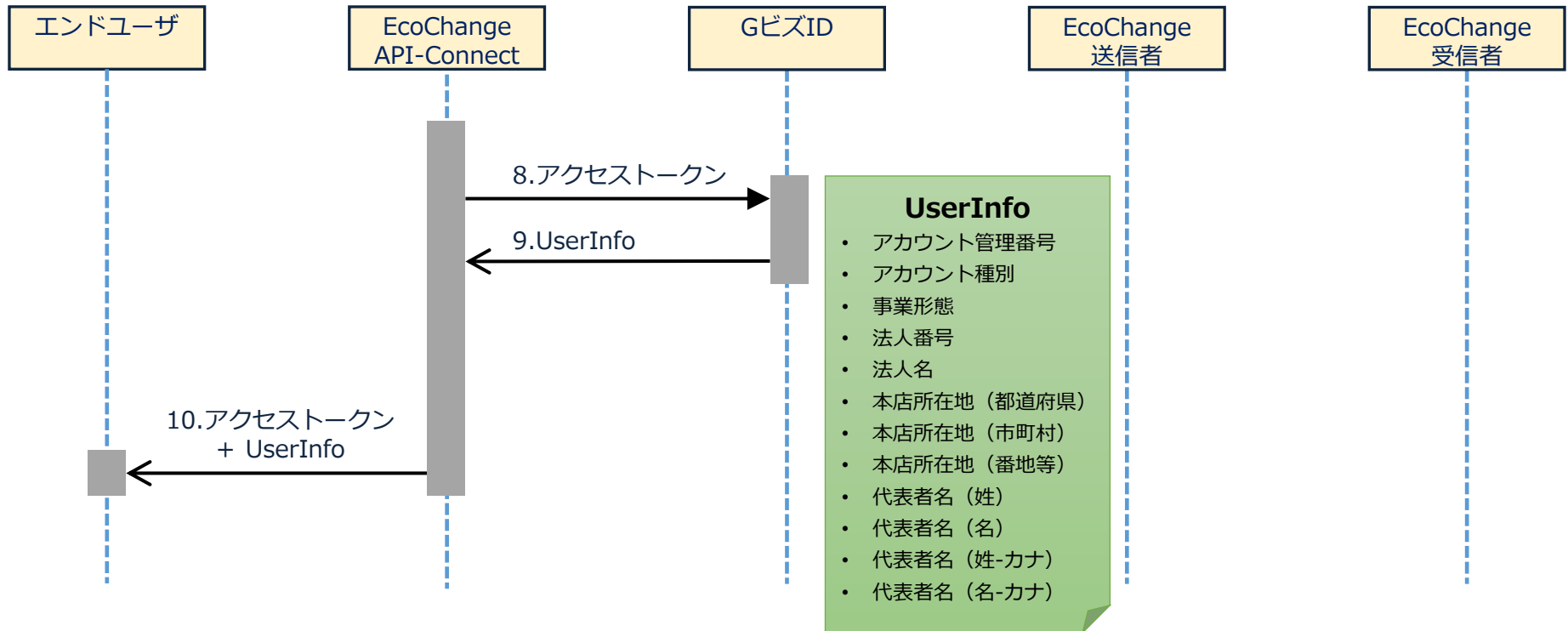
実証検証シナリオ（添付資料：「[図表_検証シナリオ実績.pdf](#)」）

以上

検証シナリオ -二段階認証（認可～アクセストークン取得）-



検証シナリオ -二段階認証（ユーザー属性取得）-



検証シナリオ -EDI情報送信-

